

平成26年7月23日

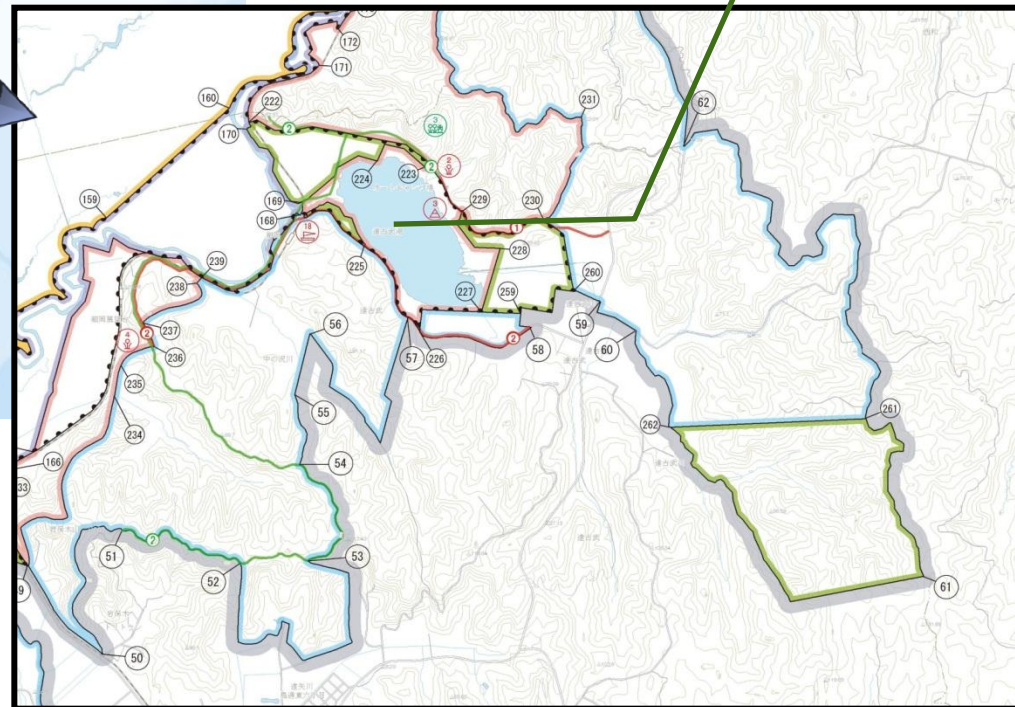
中央環境審議会自然環境部会自然公園小委員会（第28回）

国立公園事業の決定・廃止・変更 案件に関する説明資料

決定：3件 / 廃止：1件 / 変更：4件

釧路湿原国立公園

達古武地域自然再生施設 変更



達古武地域：
釧路湿原の東側にあり、達古武湖を中心に
湿地とその集水域が一体となった地域

達古武湖

富栄養化によるヒシの爆発的増加
外来種のウチダザリガニの生息



水生植物等への影響
生態系の劣化



ヒシ



ウチダザリガニ

周辺丘陵地

森林の荒廃や単純化（裸地・ササ地・カラマツ）
シカの食圧による森林の更新阻害



土砂流出抑制機能・保水力の低下
多様な生物の生息環境の悪化



カラマツ林

達古武地域
自然再生施設

：環境省が事業執行

平成18年2月「釧路湿原達古武地域自然再生事業実施計画」

→達古武湖北岸のカラマツ植林地における間伐や広葉樹の植栽等による自然林の復元事業

平成25年2月「達古武湖自然再生実施計画」

→達古武湖における富栄養化対策やヒシ分布制御等の自然再生事業

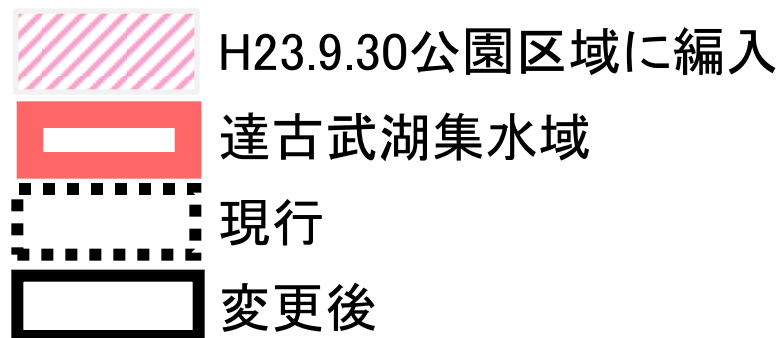
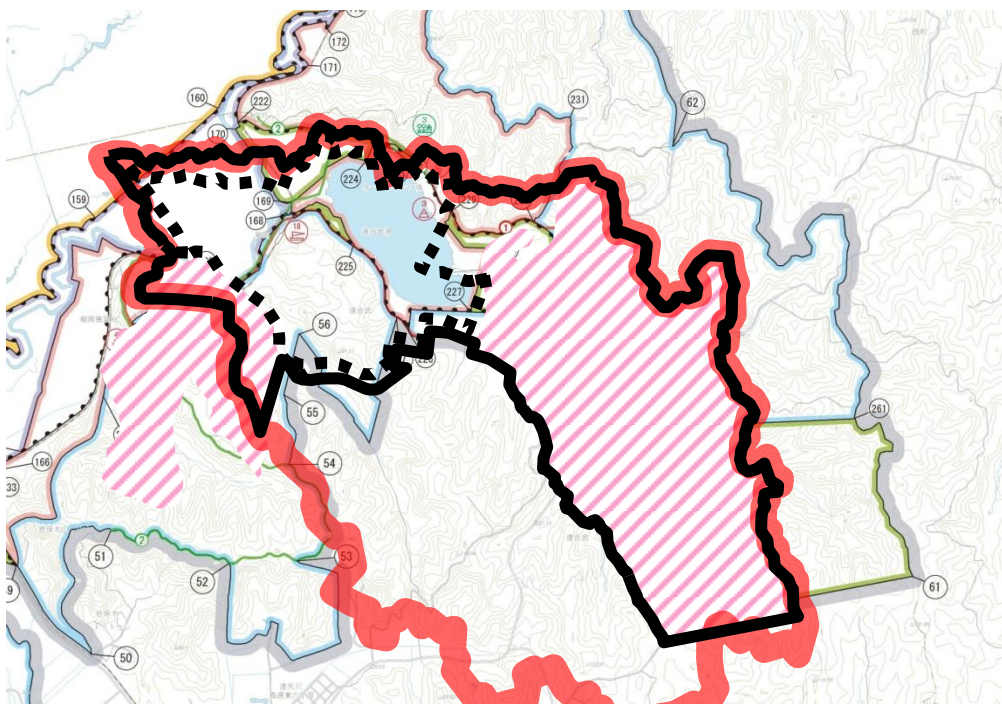
前述2つの計画において事業対象地域とされている達古武湖集水域上流部の河川や森林においても自然再生に取り組む必要性



達古武湖集水域上流部の河川や森林を新たに事業区域に追加することにより、

- ・ 達古武湖への土砂流入や富栄養化に関する対策
- ・ 多様な森林環境における自然再生事業のあり方に関する知見の収集

変更内容：区域面積 531ha → 1,641ha

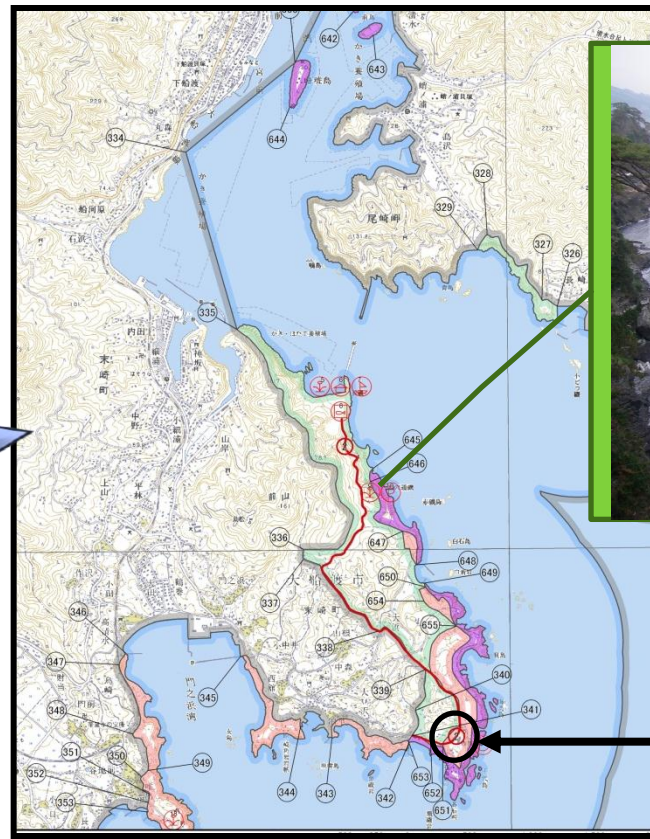


三陸復興国立公園

碓石海岸博物館 変更

碓石海岸：断崖、洞穴、洞門等の**海食崖景観**と背後の**クロマツ林・アカマツ林**が特徴

→音風景百選の雷岩の轟音や海食崖景観を探勝を目的として年間利用者数は**約48万人**（H22）



碓石海岸博物館

碓石海岸博物館：大船渡市が事業執行

地域の地質・考古・民俗・漁業等について
学習できる施設

年間利用者数は約7200人



震災以降、復興に向けた生活の再建や産業の再開のため、埋蔵文化財
包蔵地における発掘調査が活発化

震災前：専門職員2名体制で発掘調査

震災後：H24は5名体制、H25は8名体制



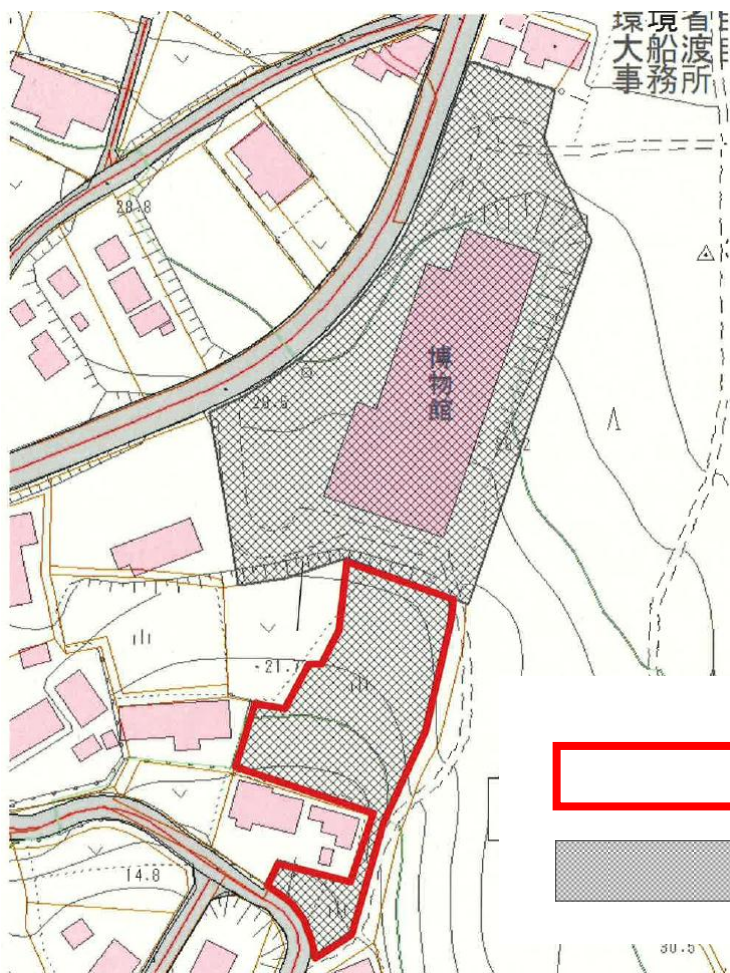
出土した埋蔵文化財が膨大になり、
保管場所が不足



仮設保管場所にて保管されている
埋蔵文化財

埋蔵文化財の保管場所として、**収蔵庫を整備**することにより、三陸地域の自然を背景とした文化の形成を学習する上で貴重なものを保管・展示。

変更内容：区域面積 0.6ha → 0.8ha



既存博物館

収蔵庫新設予定地

今回追加

変更後

尾瀬国立公園

鳩待峠駐車場 決定



鳩待峠：尾瀬ヶ原を囲む1600mの稜線上に位置する広葉樹林帯であり、尾瀬ヶ原やアヤメ平方面への入山拠点となる場所。
→尾瀬地域の利用者のうち6割程が訪れる。
鳩待峠からの年間入山者数は約23万人（H25）



鳩待第一駐車場：
 入山口付近に位置し、車両と利用者が
 混み合い、休憩場所不足・安全性欠如。

鳩待第二駐車場：
 入山口へは車道を歩かねばならず危険。



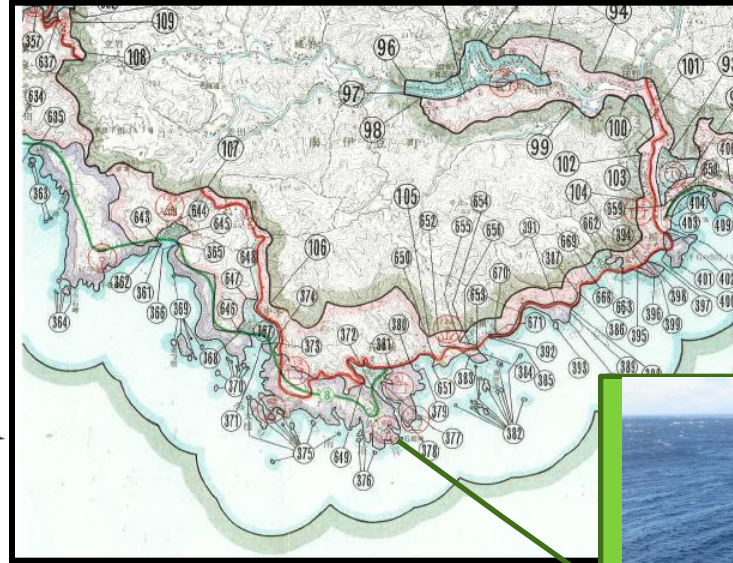
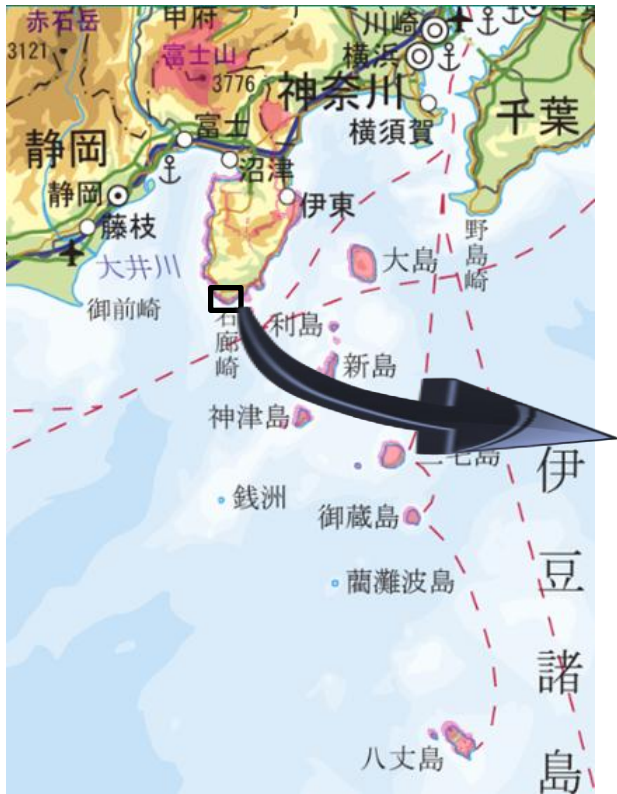
鳩待第二駐車場を駐車場事業として位置付け、民間が拡張整備。

また、鳩待第一駐車場は駐車場としての利用を廃止し、休憩場所として利用することにより、休憩場所と駐車場とを分け、利用者の安全性を確保。

決定内容：区域面積 0.6ha



富士箱根伊豆国立公園 石廊崎園地 変更



石廊崎：海拔0m～1000mの隆起海食台地であり、地殻変動や強風・波・海流により形作られた海食崖が優れた風致を呈する。
→遊歩道における自然探勝や遊覧船の利用が多い。
遊覧船の年間利用者数約2万5千人（H24）

石廊崎園地

：園地事業の一部として平成15年まで「石廊崎ジャングルパーク」を民間が営業（年間利用者約10万人（H14））

「石廊崎ジャングルパーク」閉園後、施設が老朽化、周辺の利用者が減少



民間企業が所有していた土地や建物の大部分を南伊豆町が買い上げ、老朽化した既存施設の撤去整理や住民の意見を踏まえた面的な園地の再整備を実施。

変更内容：

区域面積

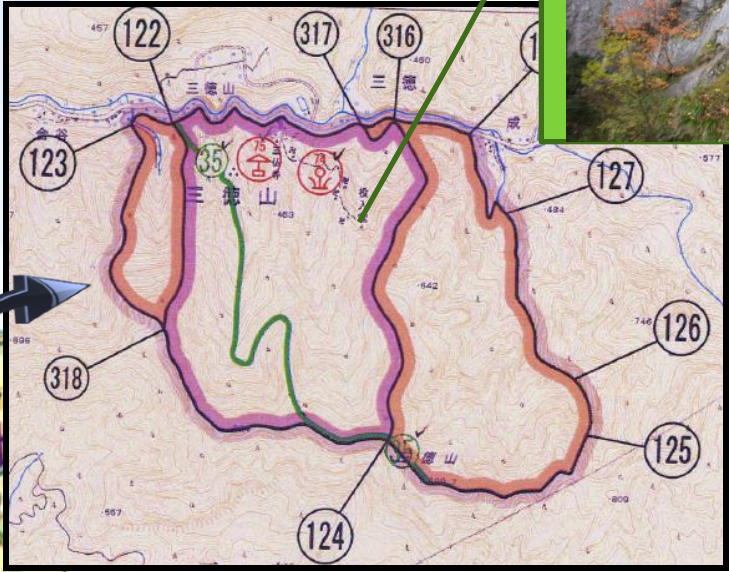
35.6ha → 55.6ha



大山隠岐国立公園 三徳山園地 決定 三徳山休憩所 決定



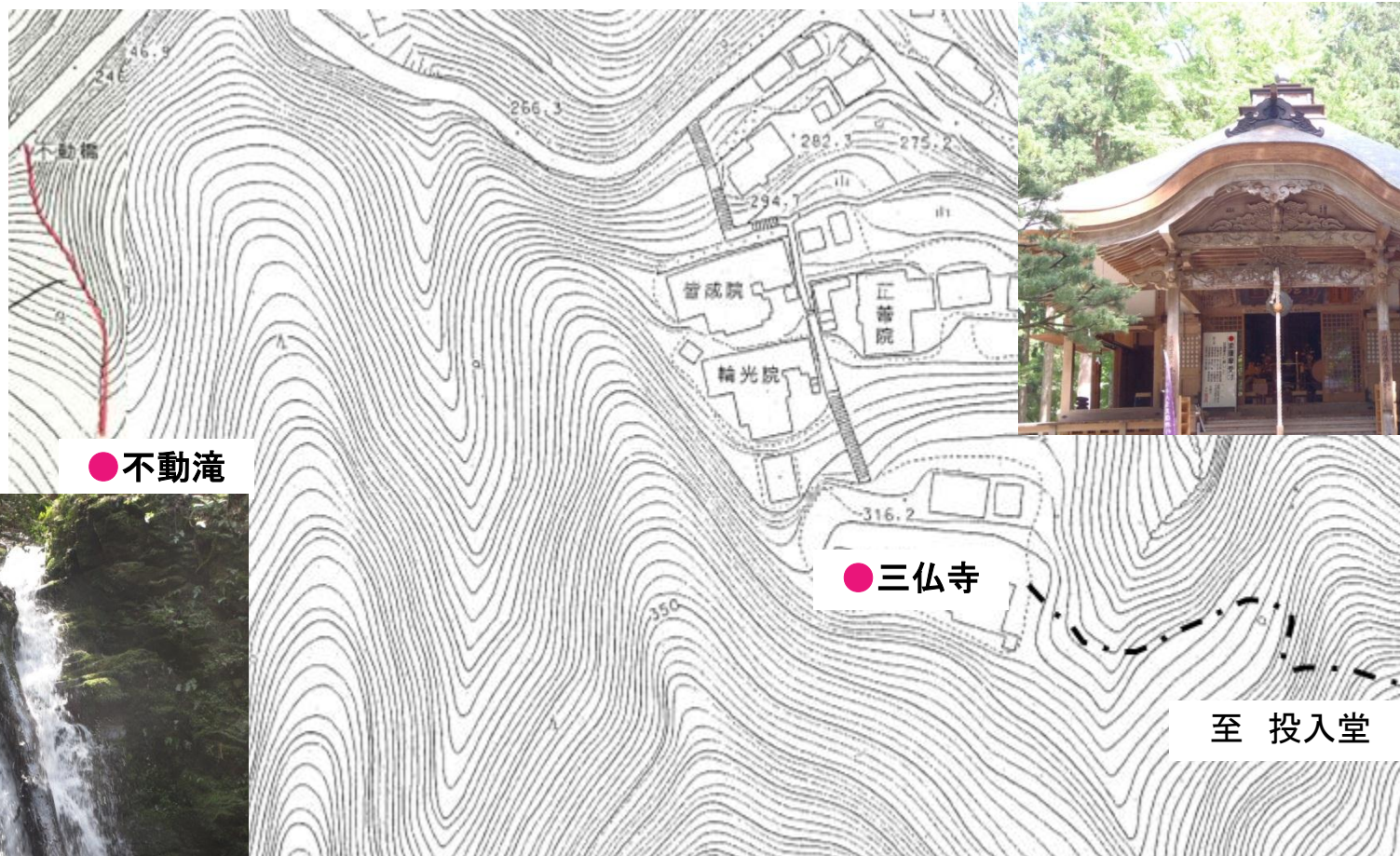
投入堂



三徳山：花崗岩基盤の上を凝灰角礫岩、さらにその上を安山岩類が被う**トロイデ型**の山。
照葉樹林や**ブナ林**等自然林が垂直分布。

三仏寺：三徳山の北側中腹に位置する国宝**投入堂**を境内地を含む寺。

→境内地の年間入込者数は**約5万人**（H24）



● 不動滝

● 三仏寺

至 投入堂



不動滝

不動滝：三仏寺の西側約300mの場所に位置する**因伯の名水**
16選に選ばれた滝。

既存公衆便所及び周辺園路：

投入堂や三仏寺の参拝のための入口として利用されている。

今後も適切な修繕及び維持管理が行われる必要性。

不動滝への園路：

法面崩壊のため現在通行禁止となっており、再開の必要性。

既存休憩所等：

投入堂や三仏寺への参拝のための入口に位置し、公園利用者への食事の提供、土産物の販売、情報発信等を行っている。（年間利用者数約6000人）

今後も適切な修繕及び維持管理が行われる必要性。



いずれも**三朝町**が整備し、**維持管理**してきた施設であり、**園地事業**として位置付け、引き続き町が修繕及び維持管理。

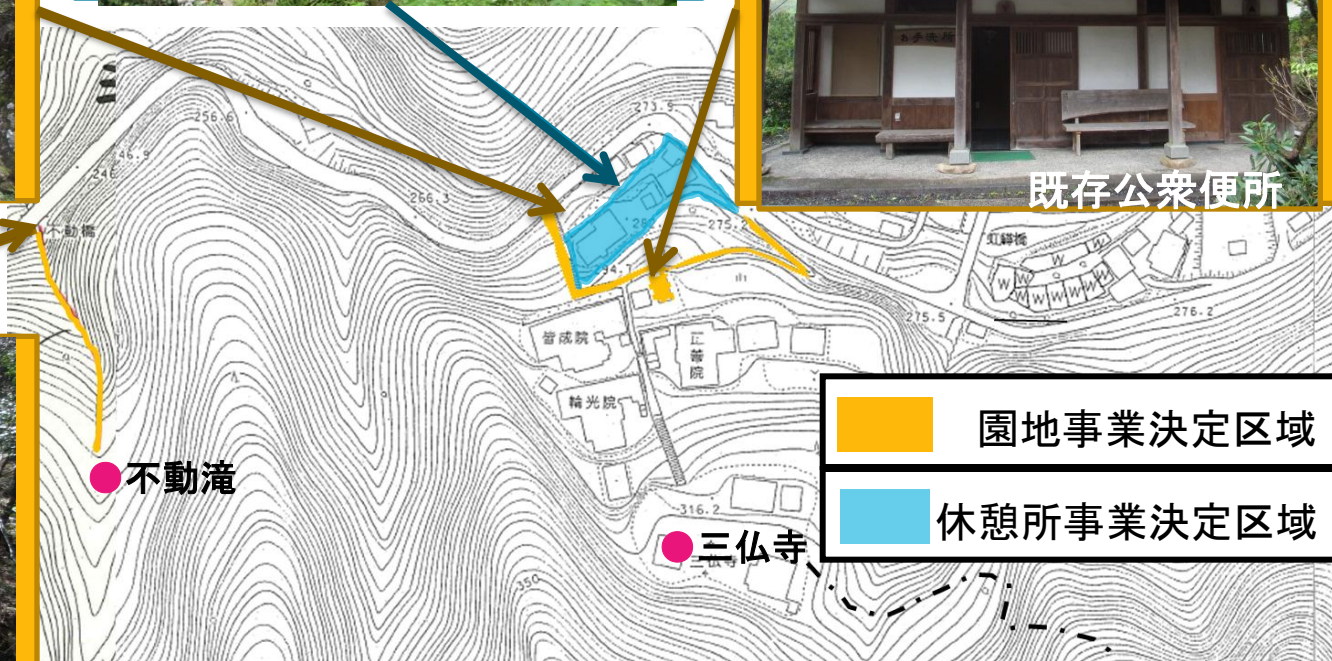
特に、不動滝への園路については**利用再開**に向けて**各種調査**が実施される予定。



いずれも**個人**が整備し、**維持管理**してきた施設であるため、**休憩所事業**として位置付け、引き続き修繕及び維持管理を実施。

三徳山園地 決定内容：区域面積 0.1ha

三徳山休憩所 決定内容：区域面積 0.2ha



至 投入堂

大山隠岐国立公園

行者谷線道路（歩道） 変更

大山寺三鈷峰線道路（歩道） 廃止



大山山系：
中腹に**ブナの二次林**が、
さらに山頂に向かう途中
に**ダイセンキャラボク**が
見られる。

行者谷線道路
(歩道)

: 鳥取県が事業執行。

入山時には9割以上の利用者が夏山登山道を利用するが、
下山時には3割以上が行者谷線を利用している。

大山寺三鈷峰線
道路(歩道)

: 一部を除き危険箇所の多い路線となっており、管理者が決まる
見込みなし。



事業決定路線が現状の利用路線と異なり、また、危険箇所が含まれているため、路線を見直す必要性



行者谷線については、現状の利用路線に事業決定内容を変更し、引き続き**県が適切に維持管理**を行う。

大山寺三鈷峰線については、危険性を伴うため廃止する。

